



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	特別養護老人ホームラ・スール苗穂リバーサイド	階数	4
建設地	中央区北1条東19丁目6-3の内、北2条東19丁目11-5、-1の内	構造	RC造
用途地域	工業地域、準防火地域	平均居住人員	100 人
建物用途	病院	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
竣工年	2022年2月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	6,369 m ²	評価の実施日	2021年3月15日
建築面積	2,358 m ²	作成者	
延床面積	5,258 m ²	確認日	
		確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★☆ **A**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	74%
③上記+②以外のオンサイト手法	74%
④上記+オフサイト手法	74%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 一次エネルギー消費量の評価
 建物全体の[BEE][BEIm]= **0.69**

2-5 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.5

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項

総合 2階に管理諸室を設け、既存特養の管理諸室とレベルを合わせることで、相互対応を可能にした。また管理諸室を入居者階の中間に設けることにより、それぞれのユニットへの動線を短くした。		A 省エネルギー 建物の高断熱化、サッシの二重化、ロスナイ換気扇の採用などにより冷暖房に係る省エネルギー化を図り、照明器具のLED化により、消費電力の低減を行いました。また井戸水の利用により水道水の低減を図りました。
B 省資源等 外部にゴミ庫を設置し、「廃棄物保管庫」「再利用物保管庫」として利用し資源の再利用を心がけます。	C 緑化 札幌市の緑化条例に沿った設計としています。	D 雪処理 敷地内に堆雪場を設けています。

4 ほかの認証・評価制度の利用

(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	なし	BELS認証	なし	LEED認証	なし
上記以外の認証・評価制度の利用: 建築物のエネルギー消費性能向上に関する適合通知					

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.4)

特別養護老人ホームラ・スール音響リバーサイド

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点 評価項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
Q 建築物の環境品質								3.2
Q1 室内環境								3.0
1 音環境			2.6	0.15	2.6	1.00		2.6
1.1 室内騒音レベル			3.0	0.40	3.0	0.40		
1.2 遮音			3.0	0.40	3.0	0.40		
1 開口部遮音性能			3.0	0.40	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能			3.0	0.60	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	3.0	0.20		
1.3 吸音			1.0	0.20	1.0	0.20		
2 温熱環境			3.0	0.35	3.0	1.00		3.0
2.1 室温制御			3.0	0.50	3.0	0.50		
1 室温			3.0	0.38	3.0	0.57		
2 外皮性能	省エネ		3.0	0.25	3.0	0.43		
3 ゾーン別制御性			3.0	0.38		-		
2.2 湿度制御			3.0	0.20	3.0	0.20		
2.3 空調方式			3.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境			3.0	0.25	3.0	1.00		3.0
3.1 昼光利用			3.0	0.30	3.0	0.30		
1 昼光率			3.0	0.60	3.0	0.60		
2 方位別開口				-		-		
3 昼光利用設備	省エネ		3.0	0.40	3.0	0.40		
3.2 グレア対策			3.0	0.30	3.0	0.30		
1 昼光制御	省エネ		3.0	1.00	3.0	1.00		
2 映り込み対策				-		-		
3.3 照度			3.0	0.15	3.0	0.15		
3.4 照明制御			3.0	0.25	3.0	0.25		
4 空気質環境			3.4	0.25	3.0	1.00		3.3
4.1 発生源対策			3.0	0.50	3.0	0.63		
1 化学汚染物質			3.0	1.00	3.0	1.00		
4.2 換気			3.0	0.30	3.0	0.38		
1 換気量			3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能				-	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理			5.0	0.20		-		
1 CO ₂ の監視				-		-		
2 喫煙の制御		敷地内全面禁煙を実施	5.0	1.00		-		

Q2 サービス性能			3.1	0.30	4.4	1.00	3.2
1 機能性			3.1	0.40	4.4	1.00	3.4
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40	5.0	0.60	
1	広さ・収納性	個室10㎡以上を確保		-	5.0	1.00	
2	高度情報通信設備対応			-		-	
3	バリアフリー計画		3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性			3.0	0.30	3.5	0.40	
1	広さ感・景観 (天井高)	個室天井高さ 2.5m確保		-	4.0	0.50	
2	リフレッシュスペース			-		-	
3	内装計画		3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理			3.5	0.30		-	
1	維持管理に配慮した設計	外部に利用する鋼材はアルミを利用しサビの出ない材種とした	4.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性			3.1	0.30		-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数			3.2	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源 給水管・給湯管にはステンレス鋼管を使用し、排水管にVP管を採用	4.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
2.4 信頼性			3.4	0.20		-	
1	空調・換気設備	非常電源を採用し、非常時にユニット内の1箇所/2ユニット内共用スペースが作動するよう計画した。	4.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備	井水利用を考えている。	4.0	0.20		-	
3	電気設備		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20		-	

3 対応性・更新性			2.9	0.30	2.9	1.00	2.9
3.1 空間のゆとり			2.8	0.30	2.8	0.50	
1 階高のゆとり			2.0	0.60	2.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ		160.15/1541.74=0.103 3.0/12.6=0.23	4.0	0.40	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40		-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.5
1 生物環境の保全と創出	緑化		3.0	0.30		-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	緑化	建物を低く抑え、道路面が高いため低く感じられると思う。また既存特養と色合いを揃えた。道路側には緑地を設けた。	4.0	0.40		-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30		-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雪処理	内装として一部札幌軟石を採用、2階に地域交流に役立つよう、福祉避難場所を設置。中庭を設け、共同生活スペースの開放性を保った。	4.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-		-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	BP[BPI _m]=0.63	5.0	0.20		-	5.0
2 自然エネルギー利用	省エネ		3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化	省エネ	[BEI][BEI _m] = 0.69 -	5.0	0.50		-	5.0
4 効率的運用			2.0	0.20		-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00		-	
4.1 モニタリング	省エネ		3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制	省エネ		1.0	0.50		-	
集合住宅の評価				-		-	
4.1 モニタリング	省エネ			-		-	
4.2 運用管理体制	省エネ			-		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.0	0.20		-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60		-	3.0
2.1 材料使用量の削減	省資源		3.0	0.11		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		3.0	0.22		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	-	3.0	0.22		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	再生加熱アスファルト混合物	3.0	0.22		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源		-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源		3.0	0.22		-	

3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤	省資源		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源		3.0	0.50	-	-	
3 冷媒	省資源		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮	省資源	排出量74%	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止	省資源		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 暖化 暑処理		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	省資源	基本的に公共下水に排除が良いが、一部浸透排水管を使用している。	4.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理	敷地内にゴミ保管庫を設置、ゴミの分別に利用。堆雪用場所を設置	5.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	



■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

1 建物概要		BEE	1.5	BEEランク	A
建物名称	特別養護老人ホームラ・スール苗穂リバーサイド				
建物用途	病院				
延床面積	5,258.2 m ²				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★☆	<p>省エネルギー性能</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>
	省資源等	★★★☆☆	
	緑化	★★★☆☆	
	雪処理	★★★★☆	

3. 重点項目のCASBEEスコア					
A 省エネルギー	(最高点 23.1 最低点 6.6)			合計	18.7点 / 23.1点
Q1 温熱環境	スコア 0.6 / 1.0	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア 4.0 / 4.0		
Q1 光・視環境	スコア 1.3 / 2.1	LR1 自然エネルギー利用	スコア 1.2 / 2.0		
		LR1 設備システムの高効率化	スコア 10.0 / 10.0		
		LR1 効率的運用	スコア 1.6 / 4.0		
B 省資源等	(最高点 23.7 最低点 7.7)			合計	15.6点 / 23.7点
Q2 耐用性・信頼性	スコア 0.7 / 1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア 5.4 / 9.0		
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.4 / 2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア 1.3 / 1.9		
		LR3 地球温暖化への配慮	スコア 4.0 / 5.0		
		LR3 地域環境への配慮	スコア 2.8 / 4.4		
C 緑化	(最高点 15.3 最低点 3.1)			合計	10.4点 / 15.3点
Q3 生物環境の保全と創出	スコア 2.7 / 4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア 1.5 / 2.5		
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア 4.8 / 6.0				
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.4 / 2.3				
D 雪処理	(最高点 3.0 最低点 0)			合計	2.0点 / 3.0点
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.0 / 1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア 2.0 / 2.0		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数

■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数